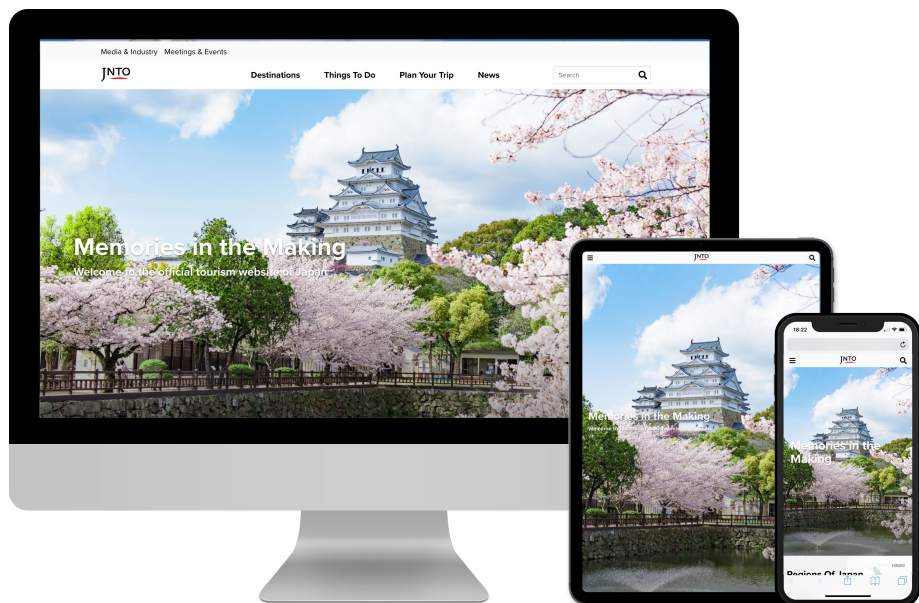


JNTOグローバルウェブサイト ローカライズ事業

日本の公式観光ウェブサイトの世界22市場へローカライズ



事業名

JNTOグローバルウェブサイト 多言語ウェブサイトリニューアル事業

発注者

独立行政法人 国際観光振興機構

受託年度

平成30年度、平成31年度

URL

<https://www.jnto.go.jp/>



提供サービス

ローカルサイト制作
翻訳品質管理
翻訳用語集管理
多言語CMS開発
サイト内コンテンツ移管
テクニカルサポート&CMS操作トレーニング
グローバルサイトとローカルサイトの統一化

日本のインバウンド史上最大となるローカライズ事業への挑戦

訪日外国人旅行者に観光情報を提供する公的専門機関、日本政府観光局（JNTO）。ファンキー・コープは、JNTOが運営する公式英語観光サイトのリニューアル事業を受託し、訪日観光の見所や情報を余すことなく伝えるため、3,000ページ、100万英単語以上に及ぶコンテンツを制作。2018年2月に外国人旅行者向け公式グローバルサイト「Travel Japan」がオープンしました。

翌年から2年をかけてスタートしたのが、リニューアルした英語公式グローバルサイトを基軸に、13言語の翻訳、さらに世界22市場のサイトをグローバルサイトと統一しながらリニューアル構築する大規模プロジェクトでした。

単なる翻訳でなく、どうコンテンツを“ローカライズ”するか？

英語ユーザーを対象に制作されたグローバルサイトのコンテンツをただ各言語に翻訳するだけでは、内容は伝わっても違和感が残ります。ユーザーエクスペリエンスや滞在時間向上の鍵となるのは、言語や文化、習慣、法律、宗教が異なる各ユーザーが違和感なく楽しめるコンテンツなのです。

本事業の課題は、100万英単語以上の大規模コンテンツを、短期間で13言語・22市場にローカライズするための制作体制を構築すること。弊社制作チームは、単なる翻訳でない、コンテンツの真のローカライズを目指して、新たな事業設計に着手しました。

ライティングスタイルの一貫性を保ちながら、各市場・言語の文化背景を考慮して正確さと読み心地のよさを追求するため、弊社制作チームは、各言語の翻訳チームは少数精鋭であるべきだと考えました。

そこで新たに導入したのが、LQC（Localization Quality Controller）というポジションです。各言語の翻訳、編集、校正のプロフェッショナルである彼らが翻訳チームをリードし、本事業のスタイルガイドと用語集に基づいて定期的なフィードバックを行うことで、ローカライズコンテンツの品質を担保。LQCの採用時には弊社独自の筆記テストを行い、訪日観光や日本文化に精通したLQCを優先的に採用することで、単なる翻訳を超えて、日本の魅力をパワフルに伝えるコンテンツのローカライズを実現しました。

ウェブサイトを通じて、世界における日本ブランドを統一

また、JNTO海外事務所がこれまで運営してきたローカルサイトは、サイト構成、内容、分量、デザイン等の面でばらつきがあり、ブランディングの観点から見て、JNTO全体としての統一感を欠いていました。

新たなローカルサイトでは、グローバルサイトに合わせてUX、デザイン、レイアウト、コンテンツを統一化。さらに22市場すべてのドメイン名の整理を実施しました。これによって各市場においてJNTOが発信する情報の充実と品質向上を図り、訪日観光の魅力の世界的な認知度向上への貢献を実現しました。

「ハイブリッド化」を後押しする、直感的な多言語CMS

さらに、JNTOのローカライズ事業における大きな特徴が、グローバルサイトのコンテンツに市場独自のコンテンツを組み合わせた「ハイブリッド化」です。JNTO海外事務所が掲げるそれぞれの戦略に基づいたハイブリッド化をサポートするのは、弊社独自開発の多言語CMS。各市場の嗜好やターゲットに合わせた独自コンテンツの追加や、ページカスタマイズを含めたコンテンツ管理・更新が直感的に操作でき、JNTO本部と海外事務所の重複作業の排除しながら、ハイブリット型ローカルサイトの柔軟かつスピーディーな制作を実現しました。

また、ローカルサイトのオープンに合わせて、多言語CMSのマニュアル提供と操作セミナーを実施するとともに、海外事務所によるローカルサイトの維持・運営をサポートするため、各言語のLQCが制作したスタイルガイドや用語集等の提供も行いました。